平成 30 年2月 11 日（日）

四季の森公園自然観察会「里山の春を探しに」

寒さの中で春を待つ草花の花を訪ねてみましょう！

NPO 法人四季の森里山研究会　担当：尾崎、倉重、大塚、武本

〇２月中旬　四季の森で見られる花　　〈観察のポイント〉

フクジュソウ	セツブンソウ	オオイヌノフグリ	ホトケノザ
ヒメオドリコソウ	タネツケバナ	マンサク	？　？　？

フクジュソウ：日光を効率よく受光するように咲く
セツブンソウ：花弁に見える白い部分は愕片、花弁は中央の部分
オオイヌノフグリ：花弁は４枚、おしべ２、めしべ１、短い毛で雪、霜を遠ざけ保温
ホトケノザ、ヒメオドリコソウ：シソ科の花の特徴（唇型花）
タネツケバナ：アブラナの仲間の特徴（十字花）

○ 雑草の芽生え

芽生えは草の命の始まりです。寒さのうちに芽生え、じっと春を待ち小さな花を咲かせます。“名もない草”　などありません。そんな草の名前を呼んであげたいと思います。

○ スプリング・エフェメラル（Spring ephemeral）　春の妖精

春先に花をつけ、木々が葉をつける緑陰が深くなるころには、地上の茎・葉は消え、あとは地下で過ごす一連の草花の総称。「春のはかないもの」「春の短い命」というような意味です。

○ 関東地方のオオカミ信仰

丹沢山塊ではシカによる山野草や植林の食害が深刻です。オオカミの導入も提案されていますが、関東地方には、江戸時代大変隆盛となったオオカミを信仰する「講」が現在でもあるそうです。ただ、時代の推移とともに講員も少なくなっているそうです。でも、オオカミ神社は参拝客で大賑わいとのことです。

次回は、３月１１日(日)「桜前線の前に見られる桜」です。